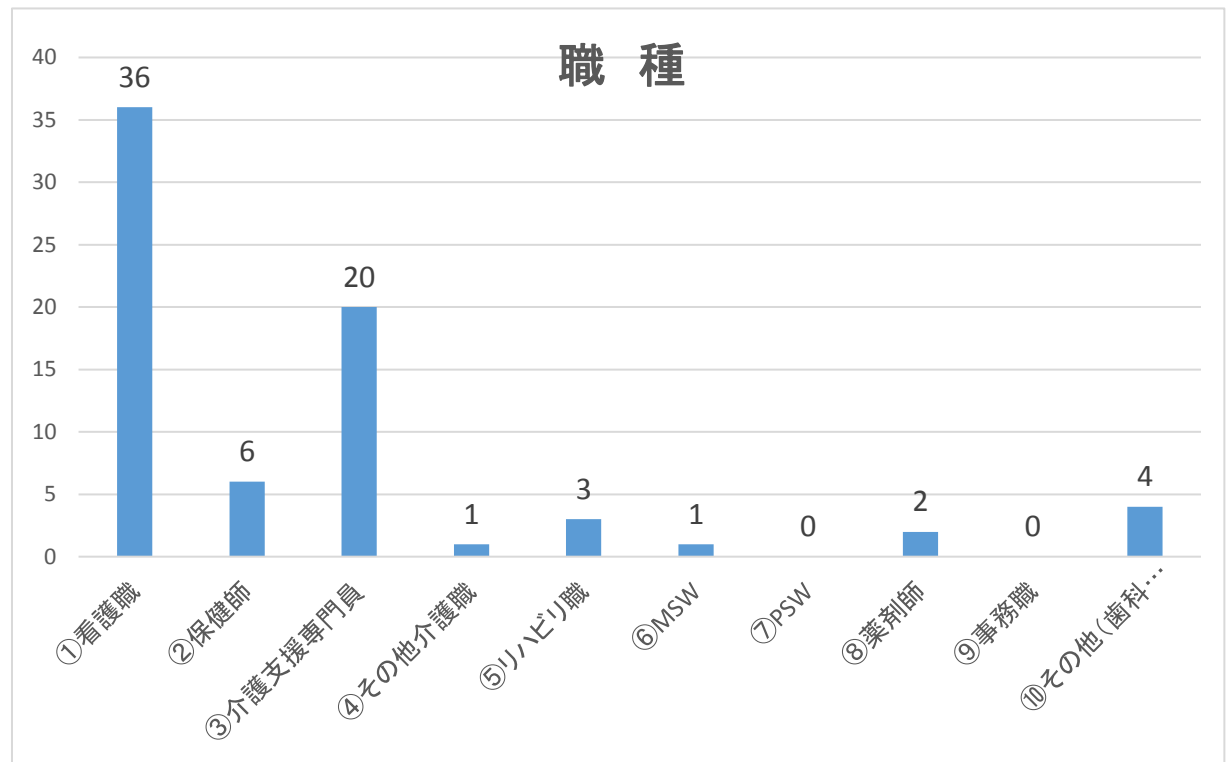


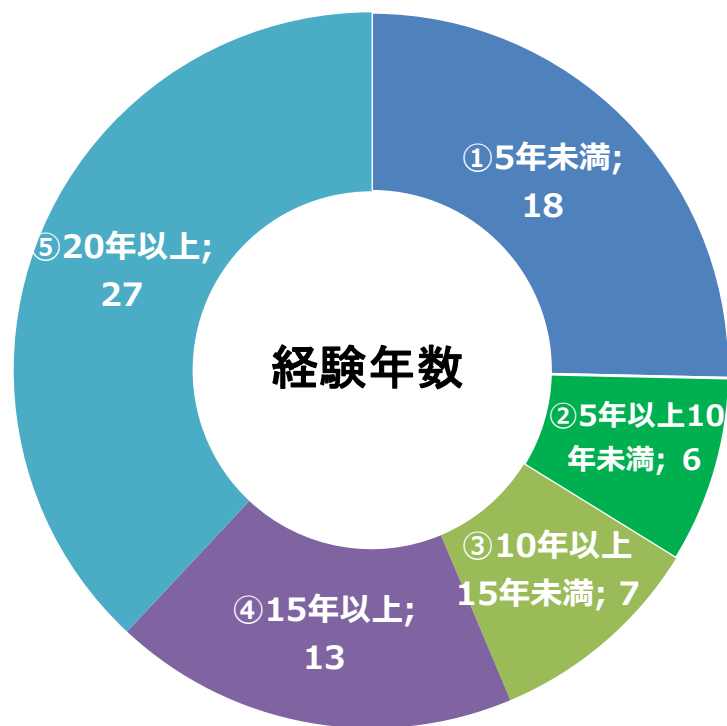
第1回 北空知地域入退院支援研修会(R1.7.22) 参加者アンケート集計結果

(1)職種	回答数	率
①看護職	36	49.32%
②保健師	6	8.2%
③介護支援専門員	20	27.4%
④その他介護職	1	1.4%
⑤リハビリ職	3	4.1%
⑥MSW	1	1.4%
⑦PSW	0	0.0%
⑧薬剤師	2	2.7%
⑨事務職	0	0.0%
⑩その他(歯科医・相談員・管理職・不明)	4	5.5%
計	73	100%

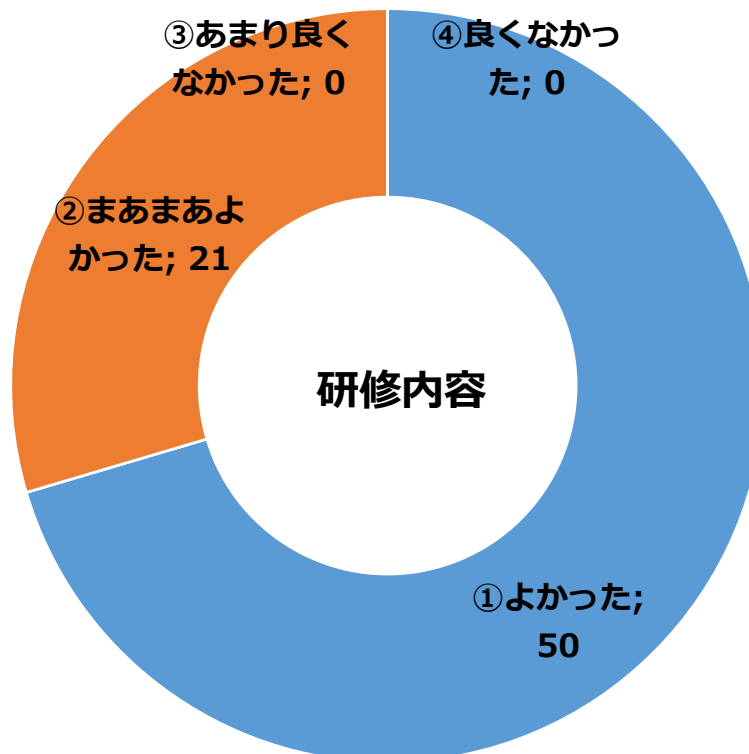
研修会参加者数 86名 アンケート回答者数 73名 回収率84.9%



(2)経験年数	回答数	率
①5年未満	18	24.7%
②5年以上10年未満	6	8.2%
③10年以上15年未満	7	9.6%
④15年以上	13	17.8%
⑤20年以上	27	37.0%
未回答	2	2.7%
計	73	100%



(3)研修内容	回答数	率
①よかった	50	68.5%
②まあまあよかった	21	28.8%
③あまり良くなかった	0	0.0%
④良くなかった	0	0.0%
未回答	2	2.7%
計	73	97%



①看護職の感想等

2 研修を終えて、あなたが学んだこと、実践してみようと思ったことをお書きください。	3 今後、この研修会で取り上げて欲しいテーマや研修の方法について何かあればお書きください。	4 研修全体を通してのご意見・ご感想をお書きください。
多職種の方とのグループワークを通して、自分にはない考えを聞くことができ、今後の退院支援に役立てたいと思ったことがたくさんありました。本人に着眼しがちですが、家族の思いや生活背景についてわからないことが多々あると話し合いを通して気付きました。最期をどこで迎えたいか、本人・家族の方に聞いていきたいです。	今回のように事例検討会は定期的に行っていく必要はあると思います。	事例を元にして検討することでさまざまなタイミングでいろんな職種が介入することで患者・家族が退院後の生活に向けて具体的なビジョンが見えるのだと感じた。自分はどれだけ介入できるのかを考えながら、日々のコミュニケーションを図り、関わっていきたいと思った。
病棟勤務の看護師として、退院後も支援が必要な方との関わりの中で必要な情報は何か、スタッフ間で考えたり、情報を共有することで退院後の生活がより良いものになると学んだ。	訪問看護ステーションの介入困難だった事例	グループを細かく分けすぎ。もう少し、人数が多いといろんな職種が入れるのでは？
職種が違くと着眼点も違うので、考えていることがいろいろと話しを聞くことができた。	退院の方向性が異なる家族への退院支援について	時間内にできる研修を希望。各施設にも負担が少なくなるような研修体制を望みます。
サービスを受けないで自宅退院した方を地域包括に情報を提供して見に行き行って欲しいことを具体的に伝えてつながっていきけるようにしていきたい。	今回の事例のその後を知りたいです。	初ファシリテーター緊張しました。お疲れさまでした。
本人と家族の思いに寄り添い多職種と連携していく。	退院が困難であった事例	他の職種の方と関わる機会は少ないので貴重な体験になりました。
地域でのつながりをやっていくことが大切		いろいろな職種の方と意見交換でき楽しかった。
情報を伝えることの大切さを実感した。私たちはわかっていても、患者さんや家族にはわからないことだらけのためより丁寧に説明をしていくことを心がけようと思う。		多職種とグループワークをしていろいろな方面からの意見が聞けて良かった。
介護保険を利用していなくても地域包括ケアとして保健師の訪問ができる事が知らなかったのでよい学びになりました。		大変勉強になりました。
目の前の問題(生活・ストーマケア)に目がいきがちですが、本人や家族がどうなりたい、何を大切にしたいと思っているかを知り、支援していけるようにしたいと思います。		時間がもう少し短いと嬉しいです。
退院支援をする際には、家族の今までの生活、暮らし方の情報がとても重要であることを学んだ。		会場の広さと人数の多さからグループワーク時に声が聞こえにくい部分があり、ちよっともったいないと感じました。
看々連携、多職種との連携が大切。		色々な方の意見や疑問を聞いてよかった。
入院時から退院後の生活を見据えて情報を取ることの大切さ、何に注目して情報を取るのが大切だと感じた。		楽しく多職種と関わる機会になりました。
外来看護を充実させます。実は情報共有して継続看護につなげています。もっと外来で行っていることを皆さまに知ってもらおう努力をします。		事例発表にだけあった情報が書き切れなかったので配布してもらえらるともっと話し合いが盛り上がったのではないかと思います。
本人や家族の思いをその時々で丁寧に傾聴し、希望する生活をかなえてあげられるようにしていきたい。		各職種の方々から様々な視点からの考えを聞くことができとても勉強になりました。

本人の思い、家族の思いを確認しケアにつなげてみようと思いました。		看護師はお金の話しに弱い(わかっていない)と痛感しました。
介護・医療保険をつかわないストマ造設患者さんの在宅復帰という事例があることを知り、困難事例として、良い話し合いをもつことができてよかった。		今回の事例は外来看護に大きく関与する内容でしたが、外来スタッフがほとんど出席がなかったのは残念に思う。
色々な職種の方と関わって、いい機会となりました。		様々な職種の方との交流は楽しいと思いました。
入院時や病態が変化した際、自分から本人や家族の思いを確認することができていなかったと気がつき、今後本人や家族の思いを確認していこうと思いました。		
入院中から本人・家族の意向や思い、生活背景を把握すること、退院後の支援に向けて、外来ナース・他サービスとも連携をすること。		
退院後の生活において主となる家族のフォローに対し、もっと積極的に声をかけ働きかけていく必要がある		
家族への支援も大切だということを学んだ。		
もっと細かな情報が得られるよう、患者ひとりひとりと関わる必要があると思った。看護師しか知らない情報を保健師やケアマネが持っていることも多いと感じたため、積極的に関わっていきたい。		
対象者・ご家族の情報収集の「視点」を学んだ。身体面、疾患に目が向きがちだが、生活歴、職業、インフォーマルな関係性なども在宅で生活していく上で大切な情報だと感じました。		
急性期から終末期に向かう患者さんとその家族が在宅で生活することの難しさをあらためて感じました。その中でも本人の思いやサポート体制を整えるまた、サポートする人を支える輪を作ることが大切だと学びました。		
主介護者の健康状態や気持ちのフォローなど入院中・退院前に話しを聞いて必要時サポートできる機関など紹介できればいいなと思った。		
本人の気持ち、ケアをする家族の気持ちをよく考え、またどのように支援につなげていけばよいか本人の家族の思いを知ることが大切だと思った。		
今は退院支援に関わっていないのですが、職場内で今回の学びを共有します。		
家族看護のサポートについて。		
私自身の考える看護を継続します。		
振り返りができて良かったと思いました。もう少し早い段階で関わりができていれば良かったと思いました。		

③介護支援専門員の感想等

2 研修を終えて、あなたが学んだこと、実践してみようと思ったことをお書きください。	3 今後、この研修会で取り上げて欲しいテーマや研修の方法について何かあればお書きください。	4 研修全体を通してのご意見・ご感想をお書きください。
本人、ご家族の意向の確認は状況がかわるたび、負担面や心配なことの把握も含めて細かい聞き取りが必要だと思ったので実践していきたいです。「家族はこういうことが心配なんじゃないか」ということを支援者がなげかけて一緒に解決したり、安心できる関わりが必要なのだとわかった。	医療スタッフ側、介護スタッフ側、同じ利用者又は目標において双方の相手側に対する要望の確認。	他の事業所の方や他の職種の方との交流はとても大切な機会と思うので今後も可能な限り参加させて頂きたいです。
終末期を迎える対象者、その家族には、病気の受け止めと最期の時をどのようにむかえるのか、想像力が必要だと思います。その理想に近づける努力をするのがケアマネの仕事ですかね。	独居で家族の支援がない場合の支援	病院での関わりとサービス利用のない方の地域包括の役割や大切さ、地域の方とおしの関係を探ることも大切だとおもいました。周りの方の協力が大切ですね。
医療との連携を日頃の業務では直接する機会はなく、今日は医療者の関わり方を少し知ることができました。今後もこのような事例を学ばせてほしいと思いました。連携の大切さ、説明の大事な事をあらためて学びました。	具体的なケア方法等の研修があると参考になる。	毎回、勉強になります。地域で色々なケースがあり、この研修会で知ることができます。ありがとうございました。
入院中「サービスは使わない」と言われた、本人ご家族だとしても、できれば包括支援センターが在宅生活への支援として存在している事を紹介頂ければと思います。北空知で医療・介護の連携が充実していく事を期待します。	入退院(病院)⇄施設の入退院時の連携についても研修する機会があればありがたいです。	入退院支援の研修を受けて、少しずつ病院の方々と交流し、知り合いが増えてきてよいと思います。
ケアマネとしては介護保険のサービスのみで支援を入れようと思ってしまうのですが、それ以外の資源の活用をもっと考えてみようと思いました。	事例をまたお願いします。	多職種、他方向からの意見や考えが聞けて良かったです。
医療を支える支援者の視点、その方の生活を支える家族の視点をお聞きしたことで自分が気づけなかった視点を把握することができました。	色々な事例を聞き多職種での情報の共有を行いたい。	看護職の方が多くとても緊張しましたがとても楽しく学ぶことをできて良かったです。ありがとうございました。
支援をするにあたって、本人・家族の思いや生活の様子・生活歴など、どんなことでも情報が多岐にわたる良い支援につなげられると感じた。	退院前、退院後の連携	良かったと思います。
看護職の方等、色々な職種の方からの目での意見が聞けたので良かったです。病院との関係が近くなって良かったです。	困難事例だが成功した事例を発表してほしい。	色々な職種の方とグループワークができて勉強になった。
介護保険施設勤務のためサービスありきになってしまうが、インフォーマルサービスを取り入れることも大事。フォーマルサービスなしで何ができるか。	8050問題の事例研究したら勉強になりますかね。	ありがとうございました。
本人支援はもちろん、介護者の心境・疲労・不安に対する支援の重要性。	訪問・通所・施設・病院どこでも検討しなければならない事例など。	とても良かったです。ケアマネと市立ナースの合同研修
色々な視点がある事を学びました。医療保険・介護保険以外の社会資源の理解を深めたい。		運営スタッフのみなさま、準備ありがとうございました。
医療関係の方とそうでない方の視点が違うのでとても勉強になりました。		いろんな職種の方と話しあえて良かったです。
ターミナルケアは本人・家族まわりの方々も大変だと思います。		
退院時の医療・家族との情報の共有は大切だと再確認できた。今後の業務に活かしていければと思います。		
病棟看護師さんなど、直接的な情報のやりとりが必要だと感じた。		
サービス拒否する利用者に対して定期的に電話をして、体調等の状態を確認する。		
主介護者への支援のアプローチの仕方		

○その他の職種の感想等

(②保健師 ④その他介護職、⑤リハビリ職、⑥MSW、⑧薬剤師、⑨事務職、⑩その他)

2 研修を終えて、あなたが学んだこと、または明日から実践してみようと思ったことを書きください。	3 今後、この研修会で取り上げて欲しいテーマや研修の方法について何かあれば書きください。	4 研修全体を通してのご意見・ご感想をお書きください。
2 家族としての支援、本人及び取り巻く家族を含めたアプローチ。	様々なテーマが良いと思います。	グループの検討では、対象理解が深まり、チームで看護することの効果を感じました。
2 入退院支援では病棟・外来・地域の関係者等多くの職種が情報共有し連携していくことが大切だと思います。介護サービス・医療サービスの利用の有無に関わらず連携は必要だと思いました。	入退院時の連携がうまくいったケースを紹介してほしい。	研修の企画ありがとうございます。事例の積み重ねで支援の方法の検討が広がっていくと思いました。
2 入院中に退院を考えたストマケアの技術指導だけでなく不安なこと、最期の過ごし方を考えることが必要だと思いました。生活歴を把握しておくことは大事。その人の生活能力がわかる。	在宅で終末期を送る本人・家族を支える関係機関の関わり	6人程度のグループにテーブル1つは話しやすかった。テーブルがあった方が書きやすい。今回の事例が今どうなったか報告があると良い。
2 終末期の本人・家族の思いを大事に	入退院をくり返す事例など	
2 それぞれのできる職種や情報共有の必要なところがわかった。		
2 今回の事例では看護の継続では外来看護の役割が大きいと感じました。本人さんの支援をするために夫さんの支援が重要。他グループの発表で地域のサポート力への期待が話されていて、その視点はなかったと気付いた。		
4 各職種の考えや意見が聞けて勉強になった。		
5 医療者側からの支援によって、本人も家族も安心できる事がわかり、関係性をつくり、何でも話し合えるよう心がけようと思いました。	介護支援専門員の方々の支援について紹介して欲しい。看護職が多いので、違う方もたまにはいいのでは。	情報の重要性をあらためて感じました。
5 本人や家族がどの程度病態、予後が理解しているのかはしっかり確認する必要があると思いました。	呼吸器疾患の方が地域でどのように生活しているか。	普段関わりのない介護の職員の方などと話しができて良かったです。
6 患者さんが不安にならないようにできるだけ早く、色々な情報を伝えていくことが大切と思いました。		とても楽しく意見交換できました。ありがとうございました。
8 薬局の薬剤師としてあまり関わる機会の少ない領域であったので、看護師さんやケアマネジャー、訪問看護の方達の考え方や患者様への関わりを知れて良かったです。		多職種の色々な話しが聞けた。
8 患者家族等が困っている時は、相談するところ(地域包括など)を知らせる。		
10 本人の意思確認、家族環境確認		事例検討の時間がたっぷりありますので、消化不良にならず、じっくりと検討できています。全体共有の時間では他グループの発表を聞いて、更に学びを深めることができます。ありがとうございました。
10 本人、家族の気持ちを良く(もっと)知るため、色々なアプローチをしていきたい。		色々な立場の方の意見が聞けてよかった。また参加して学びたいと思いました。